

順序	発 言 者		答弁を求める者	
	氏 名	会 派 名	市 長	教 育 長
10	大 木 ひ か る	無 所 属	関 係 局 長	

発言の要旨

<p>1 生成A Iの使用状況とルールについて</p> <p>(1) A I等活用推進事業の予算の内訳は</p> <p>(2)本市ではどのようなA Iを活用しているか</p> <p>(3)職員の負担軽減はどの程度進んだか</p> <p>(4)削減できた時間をどのように活用しているか</p> <p>(5)本市における生成A I利用ガイドラインの有無</p> <p>(6)ハルシネーションへの対応は</p> <p>(7)情報漏えいや著作権侵害等への取組状況</p> <p>2 スケッターについて</p> <p>(1)スケッターとは何か</p> <p>(2)連携協定に至った背景と目的</p> <p>(3)スケッターの周知広報は（事業者向け、市民向け）</p> <p>(4)本市職員へ参加を促す予定はあるか</p> <p>(5)連携期間が終了した後の本市におけるスケッターへの取組</p> <p>3 ひとり親家庭の支援について</p> <p>(1)本市におけるひとり親世帯数（母子家庭、父子家庭）</p> <p>(2)母子家庭、父子家庭の就業状況（正社員、パート・アルバイト）</p> <p>(3)母子家庭、父子家庭の収入状況（正社員、パート・アルバイト）</p> <p>(4)ひとり親就業・定着一体的支援事業の背景と目的</p> <p>(5)母子・父子自立支援プログラム含む既存事業との違い</p> <p>(6)本市のひとり親家庭における養育費の受給率</p> <p>(7)養育費の取決めをしている家庭と、していない家庭の養育費の受給率（母子家庭、父子家庭）</p> <p>(8)養育費に関する公正証書等作成促進補助金の利用状況（過去3年）</p> <p>(9)養育費の受け取りに係る弁護士費用補助金の利用状況（令和7年度）</p> <p>4 宿泊税について</p> <p>(1)課税客体の対象となる宿泊施設数（ホテル・旅館、簡易宿所、民泊）</p> <p>(2)宿泊税の導入に向けた今後のスケジュール</p> <p>(3)システム改修等支援補助金の内容</p> <p>(4)課税免除が修学旅行に限られた理由</p> <p>(5)特別徴収交付金の割合</p> <p>(6)事業者向け説明会不参加者への対応</p>
---

10	大木ひかる	無	所	属
----	-------	---	---	---

5	スポーツキャンプ受入・誘致事業について
	(1) 過去3年間のスポーツチームの受入れ状況と今後の誘致目標
	(2) スポーツキャンプ受入・誘致事業予算の内訳
	(3) キャンプによる経済効果
	(4) Jリーグクラブの今後の受入れについて
	① 春秋制から秋春制への移行の背景と目的
	② 例年の冬の鹿児島キャンプはどうなるのか
	③ 夏のキャンプの予定と課題
	(5) 民間との連携状況
6	多機能複合型スタジアムについて
	(1) 令和7年度の白波スタジアムと県立サッカー・ラグビー場における年間利用日数、年間稼働率、そのうちサッカー・ラグビー利用の割合
	(2) 新スタジアム完成後の3施設のそれぞれの年間稼働率の見込み
	(3) 稼働見込みを基にした収支の予測は
	(4) 市長会見で語られた与次郎エリアに充足されていない機能は何を想定しているか
	(5) 平成30年にまとめられた提言書には、地方公共団体に加え、スポーツチーム、金融機関、メディアに加え、イベント・交通・宿泊・飲食・小売等のステークホルダーを集め、合意形成を円滑に進める検討体制を構築しておくことが肝要であると記されているが、候補地選定の段階から検討体制を整える考えはないか
	(6) 新スタジアムを核として、30年後の与次郎エリアをどのようなまちにしたいと考えるか
7	部活動の地域展開について
	(1) 令和7年度にモデル事業を実施した対象学校数と部活数、生徒数
	(2) 7年度にモデル事業に関わった教職員の声
	(3) 8年度部活動地域展開検討事業予算の主な内訳
	(4) 8年度の休日に教職員が兼職兼業の申請をして、指導に携わった場合の報酬の財源と報酬額
	(5) 8年度の指導者確保に向けた取組
	(6) 学校、保護者、クラブ関係者へマニュアルの作成が必要と考えるが見解
	(7) 生徒からはどのような声があったか、また生徒の声について今後の見解